

学校教育目標	自分とみんな いい いいな 稲荷台 自分はやればできる。頑張れる。未来は自分で拓く。どんなことがあっても力強く生き抜く。 仲間と力を合わせていい学校を創っていくぞ！			
	【知】自分の未来を支えるために学び 【徳】自己有用感の醸成 【体】元気な心としょうぶな身体 【公】他者と交流、そして対話 【開】新しい価値の創造			
学校概要	創立 100 周年	学校長 池田 勉	副校長 更科 和也	2 学期制 一般学級：13 個別支援学級：3
	児童生徒数： 390 人		主な関係校： 岩井原中学校 富士見台小学校	

教育課程全体で 育成を目指す資質・能力	中 ブロック	小中一貫教育推進ブロックにおける 「9年間で育てる子ども像」と具体的取組
○問題解決能力 ○対話力 ○メタ認知能力	岩井原中学校 富士見台小学校 稲荷台小学校	○相手の気持ちを理解できる児童、生徒 ○人に対する優しさ、思いやりの気持ちををもつ児童、生徒 ・授業では、子どもたちが自分の考えをもち、表現しながら学習できる環境をつくる。 ・横浜こども会議で話し合ったことを大切に、子どもの日常に返すようにする。 ・児童生徒交流日には、授業・部活動見学を通して、互いの学校生活を理解する。 ・職員研修では、児童生徒の実態をふまえ、よりよい取組について模索する。

中期取組目標	○「重点研究テーマ」自ら学び続ける子どもを育てる～だれもが考えやすい授業を目指して～を追求します。
	○3つの部の活動を通して、子どもたちの学校生活を実りあるものにします。 ①学力向上・評価部会…教育活動評価に基づいた学力向上アクションプランの立案・家庭学習・スキルタイム・読書タイムの充実、学習習慣の確立。 ②体力・健康増進部…教育活動評価に基づいた体育健康プランの立案、いなりっ子タイムの充実。 ③人権・児童指導部…教育活動評価に基づいた豊かな心育成プランの立案、縦割りバディ活動の充実。 ○100周年に向けての活動を通して、地域と連携して記憶に残る周年行事を開催します。

重点取組分野	具体的取組
生きてはたらく知	①家庭学習の質の向上に努める。全校で作文に取り組みすることで書く機会を増やす。音読では、評価項目を見直し、児童、保護者が学習を通して、どんな力を付けたいのかを把握できるようにする。②教科横断的な視点でのカリマネの取組。主体的な学習や学び合いを通しての学習意欲の向上を目指す。
豊かな心	①問題解決的な授業を行い、考えを交流するとともに、学習(授業・スキルアップタイム・家庭学習)生活両面において、“がんばり”“できた”を見取り、温かい声掛けを増やす。②コロナの影響下でも行える100周年を見据えたたてわりバディ活動を行う。
健やかな体	①授業を通して、運動に親しみ、自己の健康の大切さを認識できるようにする。また、体力向上1校1実践運動で縄跳びに取り組み、敏捷性を養う。②規則正しい生活を身につけられるようにするため、学校保健委員会で取り組む。また、体幹を鍛える取り組みを継続しつつ、柔軟性も強化していく。
社会参画	研究主題を「自ら学び続ける子どもを育てる～だれもが考えやすい授業を目指して～」と新たに設定し、特別支援教育の視点を加えて、これまでの研究成果を他教科の学びに広げていく。多教科における授業研究会や研修会を行い、教員同士で授業を見合うことで授業改善を目指す。
特別支援教育	①特別な配慮を必要とする児童に対し、個の見取りを丁寧に行い、教員間で共有し、個の特性に合った細やかな支援・指導を進める。②発達障害に関する理解研修や学習支援に関する研修を行い、児童理解や教科・生活指導に生かす。
保健管理・食育	①保健室来室状況や健康診断の結果を分析し、基本的な生活習慣を身につけ、健康な生活が送れるよう保護者との連携を図る。保健だより等、情報発信に努める。②全学年で学年に応じた内容で食育の授業を行う。また、家庭でも「食」に興味をもてるよう、定期的に食育だよりを発行する。
地域連携 学校運営協議会	①学校運営協議会を年3回行い、地域の方々からのご意見をより学校経営に生かすことができるようにする。教職員全員が、協議会に関わることができるようにする。②100周年に関わる行事を地域の学校として成功させられるよう、実行委員会を必要に応じて開催し、具体的に活動する。
いじめへの対応	①日頃から児童の様子をよく見て把握し、日常的に児童に関する情報交換を密に行う。また、n年5回のアンケート結果等からも、子どもの様子をこまめに見取る。②トラブル時に、「本当はどうしたかったのか」「どうしたらよかったのか」を子ども自身が語ることで、人間関係力を育てる。
人材育成・ 組織運営 (働き方改革)	①若手職員が増えるため、メンターの活動を活性化し、先輩職員のアドバイスを基に若手育成ができるようにする。②大幅な組織改革を行い、業務の負担軽減・効率化を図る。部長を中心に、年間を見通して計画的に仕事ができるようにする。③ICTのさらなる活用で、教職員間だけでなく、各家庭との連絡も負担軽減できるようにする。

